

訪問看護ステーション 連絡協議会だより

第15号

発行年月 2008年2月

発行所 岡山県訪問看護ステーション
連絡協議会

〒703-8251 岡山市竹田155-7

岡山訪問看護ステーション看護協会2階

TEL086-901-1375・FAX086-901-1376

http://okayama.houmonkango.net/

E-mail okayama@houmonkango.net

発行責任者 若林敏子

新年のご挨拶

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会
会長 若林敏子

平成20年の新しい年を迎え、おめでとう
ございます。

昨年4月に新しい事務所に移転し早や一
年が過ぎようとしています。会員の皆様
には何かとご支援いただき、無事協議会も
新しい年を迎えることができましたこと、
感謝しお礼申し上げます。

昨年は、年金問題や食品偽装そして薬害
によるC型肝炎の問題など、一般社会では
家族間の殺人、想像を絶する残虐な事件な
どの続発、常軌を逸する不健康な性の問題
など多々あり、恐怖に脅かされました。今年
は、十二支の最初の「子年」。新たな気持ち
で、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活
の調和)をとり、ねずみ年にあやかり、昨年
来の寒々しさを一掃し希望の見える明るい
そして心温まる一年にしたいものです。

医療制度改革で、医療は今後在宅のウエ
イトが高まり、看護職の活躍次第といわれ
ています。その中心的役割を担うのが訪問
看護であり、訪問看護ステーション同士の
連携を強化し、お互いの特徴や得意分野な
ど知り合ってネットワークを密に推進して
いくことが重要であります。

今年はお互いの横の連携を強化すると同
時に情報交換を密に、安全で安心な在宅医
療サービスの提供につとめ、在宅療養者と
共に笑顔で過ごせるように、そして各ステ
ーションのますますのご発展を祈念し新年の
ご挨拶いたします。



平成20年度 訪問看護従事者研修年間計画 (案)

日時	テーマ	ねらい	場所
平成20年 7月12日(土) 1日合同研修	訪問看護ステーションの 現状と課題について	・グループワークを行い、現状 と課題を共有し、問題解決に つなげる	看護会館
8月 1日合同研修	日常生活援助技術 II	・科学的根拠に基づいた日常生 活援助技術	交 渉 中
9月6日(土) 1日合同研修	よりよい コミュニケーション技術	・よりよいコミュニケーション 技術を身につけ、人間関係を 深める	看護会館
10月4日(土) 半日公開研修	看護倫理と リスクマネジメント	・看護倫理とリスクマネジメン トについて学び、訪問看護に 役立てる	津山総合 福祉会館
12月	非侵襲的在宅人口呼吸療 法について	・非侵襲的在宅人工呼吸療法 の実際を学ぶ	えきまえ ミヨシノ
平成21年 2月14日(土) 倉敷半日	精神障害者の理解	・精神障害者の理解を深め、看 護の実際に役立てる	古久賀ホール

新設の ステーション紹介

「訪問看護ステーションあゆみ」
篠井恵理子

病院からの訪問看護を続ける中で、
もっと地域の皆様のお力になれたら、と
いう願いがかない、平成19年11月1日、
津山市日本原の池のほとりに事務所を
構え、訪問看護ステーションとして歩き
だしました。



鳥取の県境も近く、那岐
山と田畑に囲まれた、とて
も静かで(時々自衛隊の
ドーンドーンという演習
の地響きがありますが...)

のどかなところ。

訪問看護ステーションあゆみは地域
に根ざした家庭的な看護を提供し、利
用者や家族の皆様が笑顔になれる、そ
して私たちが笑顔で仕事ができる訪問
を心がけています。

まだまだ力不足ですが、こ
れから一歩ずつ目標にむかっ
てあゆみを進めたいと思いま
す。どうぞよろしくお願いま
す。

※講師は交渉中です。※都合により、変更がある場合がございますのでご容赦ください。
※多数のご参加お待ちしております。



ステーションからの「リレーだより」

「最近思っていること」

岡山赤十字玉野訪問看護ステーション 藤田美代子

「信頼され親しまれる訪問看護ステーションに」を理念に、私たちの訪問看護ステーションはこの4月で丸11年を迎えます。

最近、「今しか家に帰れないので帰りましょう。」とか「もう治療はないので退院してください。」と突然医師に言われ、仕方がないと在宅の療養環境が整わないまま通院してくる利用者の方が増えてきました。家族も本人も不安を抱えたまま在宅療養が始まるのです。こちらも病院、診療所、ケアマ

「キャロリングに参加して」

訪問看護ステーションサマリア 谷口勝江

当訪問看護ステーションサマリアは、今年3月で8周年を迎えようとしている。母体に岡山博愛会を持ち、行事も文字通り博愛精神を伝えるキリスト教に由来するところが多い。サマリアという名前も聖書の中に登場し、倒れそうになった旅人を助け、貧しい中にも手厚く世話をした良きサマリア人からいただいている。

私の家は代々、仏教であるが自分自身はまったくの関心はなく無宗教といったも過言ではない。それでも博愛会の仕事に20年近く携わらせて頂いている。そんな中、恥ずかしい話だが毎年行われているクリスマス行事、キャロリングに昨年初めて参加した。博愛会教会から二つの病院の各病棟、施設の各階と9か所を訪問し、

ネージャー、その他事業所と慌てて連携をとりながら訪問看護も開始されます。

医療保険制度、介護保険制度の改革の中で、在院日数の短縮・在宅医療の推進がうたわれていますが、病院の医師や看護師の中で本宅に在宅医療のことを理解している方はどれくらいおられるのだろうかと考えさせられるこの頃です。

私たちも訪問看護に携わるものとしてしっかりとPRしていかななくてはと思っています。

それぞれが小さなろうそくの灯火をもち、賛美歌を唄い牧師と共に祈るのだ。集まった人は教会の方、職員、その家族、皆それぞれの思いの中集まっている。そういう人達について回りながら私は、看護という仕事に携わってきて、もちろん患者様のことを思い、患者様の為と働いてきたつもりだったが、本当に患者様の為にこんなに神聖な気持ちで静かに自分と向き合いながら祈ったのは初めてのような気がした。

長い間、訪問看護でお世話させていただいた患者様と施設で出会い、元気でいってくれたと涙がこぼれそうになった。いろいろな行事で歌った賛美歌が、その日は一段と優しく思いやりに満ちた歌に聞こえた。歌うことで皆が体と心をなびかせ、祈るこ

「精神障害者の在宅支援」～精神障害者の地域における支援の現状と連携を知る～のシンポジウムに参加して

玉島訪問看護サービスセンター 江南文子

平成19年10月6日に総合保健管理センター古久賀ホールにて4人の先生方をお迎えして行われました。それぞれの立場から支援の現状を話していただきました。岡山県精神福祉センター藤田大輔先生は医師の立場から、ご本人のニーズは何か、したいことは何かに視点を当ててプランを立てている。視点が違えば支援の内容もこんなに違う例を挙げて本人のニーズを知る事の大切さを話して下さいました。それから『ACTおかもやまチーム』の紹介があり、Dr, Ns, PSW, SW, OT, PT等がチームとなり、従来なら入院になるであろう重度の精神障害者に必要な時期と場所で必要なサービスを提供することによって、在宅生活が可能になり、その成果が上がっているとのことでした。

慈恵病院地域ケア室吉村紋子先生からは、病院という組織のなかで活動するので組織の方針や理念に影響を受けやすい特徴があるが、入院中から顔見知りになっているので訪問しても安心して受け入れてもらえている、と話されました。

倉敷保健所心の保健福祉班の宮地敬子先生からは保健所が行っている精神保健福祉活動の紹介がありました。心の健康づくり推進では引きこもり対策事業や自殺予防対策事業があり当事者から自分達のことを知ってほしいと体験発表もあるそうです。医療面では早期対応や再発予防、緊急の対応も行い自立支援医療の説明、社会復帰支援（患者会活動 共同作業所）等の紹介がありました。

最後にみさお山訪問看護ステーションの管理者の三村敏美先生からは実際に訪問看護して気を付けていることやケアの内容、抱えている問題等具体的な話がありました。まず、本人にすべて許可をもらうことが重要である。例えば家に上がっても良いか、話を聞いても良いか、確認が取れなければ上がらないこと。聞かないこと。普段何気なく行っている行為ひとつひとつに了解を得る必要があるのだと改めて考えさせられました。しかし、それは考えてみれば、当然のことで、それだけに相手の気持ちを大切にすることを看護が必要であると改めて感じました。また、先生は、利用者の力を信じ、良いところや出来ていることを評価しながら一緒に行動するその過程を大切にしているとも話されました。

会場からの質問も実際に行っている訪問での相談が多かったように思えます。一人で悩まず、みんなで共有しあう大切さ。そして最も重要なことは、訪問する私たち自身が元気でなければならないこと、ストレスを貯めないで元気でいてほしいということでした。

精神障害者の訪問は何かとこちら側が緊張するものですが、みんなで支えあうことで支援していけることが分かり有意義な研修会でした。

「訪問看護師のリハビリテーション技術を高める」に参加して

かも訪問看護ステーション 勝山貞子

去る10月27日、津山市福祉会館において、訪問看護ステーションあおぞら作業療法士宮尾昭江先生、津山中央病院作業療法士山崎幸恵先生により講義・実技をしていただきました。リハビリとは「日常生活の自立や主体性のあるその人らしい生活の再建および質の向上を促すことであり、リハビリ＝機能訓練ではないこと、問題を一方向（直線的因果関係）ではなく、それぞれの要素の相互関係によって現在の状態が生じていると考え、それぞれの要素のマイナス面ばかりでなく、プラス面や残存機能をきちんと評価し、リハビリのためのリハビリにしないようにすることが必要である。」と説明されました。午後からは、実技を含めた講義で、単に機能訓練するのではなく、骨や筋肉の動きを考えながらその人に合った動きを動作の中ですることを学びました。日々業務に追われる中で、時間内にケアをしなければならぬという思いでリハビリをしていました。しかし、前に述べた様にリハビリとは、生活の中で全体を通して改善していかなければいけないこと、その人らしい生活をしていくためには、どんなリハビリが必要なのか、どうしたらよいのか、そこから、目標設定し、関わるが必要であり、リラックスできる肢位で行い、疼痛を感じさせない手技について改めて確認ができました。

とで心を一つにし、自分にも安らぎを与えられた気がした。

遠い昔、ナイチンゲールが小さな灯りを頼りに負傷した兵士を看護した。マザーテレサが病む人の手を取り、祈りをささげた。そんなことは自分とは無関係に思えていたが、自分にもそういう場が与えられている事に深く感銘した。

毎日の仕事のなかで、ややもすればつぶれそうになる愛とか奉仕の気持ちを少し支えてもらった気がする。私は敬虔なキリスト教徒ではないが、博愛会の職員として働かせて頂いていることに感謝し、これからも博愛精神で頑張っていきたいと思う。

編集後記

今年は何年かぶりに市内にも雪が積もり、一面の雪景色に驚いてしまいました。慣れない雪道の運転に四苦八苦で肩がこり、東北のステーションの大変さを本当にわずかですが感じる事ができた気がしました。寒さが段々厳しくなっていますが、皆さん訪問看護に頑張っていっしょなことにしたいと思います。インフルエンザや急性胃腸炎などにかからないように注意して、この冬を乗り切りましょう。「連絡協議会だより」を読んで、忙しい中でもホッと一息ついていただければ幸いです。

広報委員一同

「広報委員・事務局より」

今年も、どうぞよろしくお願い致します。パンフレット「笑顔とやさしさでぬくもりのある看護をお届けします」は、事務局に常備しておりますので、ご活用ください。事務局までご連絡くださればお送りいたします。HPがより情報交換の場となり、活用しやすいよう、会員用ブログ・Q & Aコーナーを準備中です。またご案内いたしますので、お楽しみに！

